



# 薫風

銚子市立明神小学校学校便り  
VOL.11 令和6年9月2日

令和6年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子どもの育成」  
『楽しく、面白く、やってみたいをやってみよう!』

## 2 学期始業式

長い夏休みを終えて、今日から2学期が始まりました。校内には子供たちの元気な挨拶や笑顔があふれ、活力に満ちています。始業式や各教室で、姿勢を整えながら、集中して話を聞いている子供たちの姿に、新学期に向けた期待と意気込みを感じました。

始業式では、7月25、26日に行われた「第59回夏季交歓会」でのエピソードを取り上げ、次のことについてお話をしました。



＜夏季交歓会初日（7月25日）＞

お昼過ぎに、片品小の皆さんが銚子マリナーに到着し、はじめに海水浴を楽しみました。その後スイカ割りを始めようとしたとき、急に天候が不安定になり、遠くで雷鳴が聞こえてきました。雷は遠くで鳴っていても、突然目の前に落ちる可能性がある危険なものです。すぐに活動を中止し、6年生の子供たちはバスでホテルに避難しました。参加者の安全を考えて中止の判断は当然のことでしたが、子供たちにとっては残念な状況になりました。



しかし、その状況を見つめていた親師会役員の皆さんや保護者の方々、明神小の職員から「何とか形は違っても、子供たちにスイカ割りを体験させてあげたい。」「片品と明神の子供たちの喜ぶ笑顔が見たい。」という声があがりました。その気持ちをホテルの方に伝え、相談をすると、ホテルの方から「そのようなことであれば、ぜひホテルのテラスを使って、スイカ割りを行ってください。」と快く許可をいただき、スイカ割りを実施することができたのです。

このエピソードから皆さんに伝えたいことは、

「スイカ割り」という1つの活動のために、親師会役員の皆さんや保護者の皆さん、明神小の先生たち、ホテルの方が、「片品と明神のみんなに喜んでほしい」「みんなの楽しむ笑顔が見たい」このことだけを想って大勢の人たちが動いてくださったということです。



スイカ割りを終えて片付けをしているときに、親師会の西村会長が「一時は中止になってしまったスイカ割りが、このような形で実施できたのは本当にありがたいです。片品の子供たちも明神の子供たちもスイカ割りを楽しむことができ本当に良かった。」と話されていました。私は、その心から出たつぶやきに、なんて素敵な気持ちなんだろうと感動しました。

明神地区には、みなさんのことを第一に考えてくれている地域の方、保護者の方、学校の先生たちがいます。みなさんにとって、この明神地区、明神小は誇りです！このことは当たり前のことではなく、本当に有難いことです。このことに感謝の気持ちを忘れないでいてほしいと思います。

- ・「ありがとう」という言葉を日常的に使っている人は、
- ・「ありがとう」という気持ちを、いつも心に感じている人は、幸せになれると言われています。

みなさんは、

- ・1日に何回「ありがとう」と言っていますか。
- ・1日に何回「ありがとう」という気持ちを感じていますか。



学校や家での生活の中で、自分が上手くできないことを、他人のせいに行っていることはありませんか。授業や勉強に集中できないことを、先生や友達、家族のせいに行っていることはありませんか。いつも心に「ありがとう」という気持ちを感じながら、自分を見つめていくこと、振り返っていくことが大切です。

2学期は、この明神小学校に「ありがとう」という感謝の気持ちがあふれ、みんなが楽しく、ワクワクしながら勉強や行事に励んでいってほしいと思います。

◇「JA ちばみどり銚子西瓜組合」様より、子供たちのためにと、たくさんのスイカを寄付していただきました。ありがとうございました。また、親師会総務役員の皆さん、保護者の皆さん、地域の皆さんには、様々な面でご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。皆さんの温かい支えのおかげで、第59回夏季交歓会を大成功に終えることができました。